

愛育ながさき

Ai-iku-Nagasaki 59号

発行所/一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会
発行者/竹内隆伯 発行日/令和5年12月25日
〒852-8104 長崎市茂里町 3-24
長崎県総合福祉センター県棟 4F 408号
Tel:095-846-8730/Fax:095-846-8738
E-mail:info@ikusei-nagasaki.jp

ながさき育成会フォーラム 「どうする？育成会」

第62回九州地区手をつなぐ育成会 ～福岡市大会～

全国障害者スポーツ大会

ひまわりキャンプ

川棚町新観光スポット
片島公園（魚雷発射試験場跡）

ながさき育成会フォーラム

10/21(土)
長崎県歯科医師会館

久しぶりの集合形式となった育成会フォーラム。今回のテーマは「育成会」そのもの。人口の減少、福祉サービスの充実に伴い、若い世代の新入会が減少し、育成会の存続そのものが危ぶまれている地域も、全国的に少なくありません。それでも、育成会の存在意義を十二分に実感してきた世代として私たちに今、できることは何なのか。改めて考え直すフォーラムとなりました。

講演「あなたのそばに手をつなぐ育成会～楽しいところにしか人は集まらない～

全国手をつなぐ育成会連合会 副会長の小島幸子(こじまこうこ)氏を講師に迎え、小島氏の地元・栃木県でのご家族との暮らしぶりなどを交え、育成会活動への取り組みを語っていただきました。

私が会長を務める栃木県手をつなぐ育成会のホームページには「おまかせ下さい。私たち手をつなぐ育成会は全国組織です」とあります。それを実感したケースをご紹介します。

近畿地方で、障害のあるお子さんとご家族とで生活されていた会員 A さんは、故郷の仙台市のご両親が要介護となり、お子さんをご主人一人に任せることが難しく相談支援専門員を中心に話し合いました。お子さんと一緒に帰省して仙台で福祉事業所を利用する、あるいはお父さんとお子さん二人で生活できるように新たな福祉サービスを利用する、などいろいろなことを話し合ったそうです。

その時、相談相手になってくれたのが地元・宮城の育成会会長と、実家のある地域の育成会会長でした。同じ親の立場だからこそわかる、様々な悩みを安心して話すことができた上、役所や事業所に対してもフットワーク良く動いてくれて、Aさんの心の支えになっているそうです。コロナ禍の影響もあって人とのつながりが薄くなっていることを実感することも多いですが、いざ困ったときには「あなたのそばの育成会」を頼ってください、と声を大にして言いたいですね。

栃木市の育成会は賛助会員を入れても65名。「研修会がためになったので」「引っ越してきて、知人から紹介されて」「父親同士でつながりたいと思って」など入会してきた方々の動機も様々。ここ数年はコロナ禍で活動の制約や自粛が求められ、今年あたりから徐々に行事ができるようになっていきます。



【栃木県・各地域育成会の活動いろいろ】

研修会

講師と私(小島氏)のやり取りを入れ、眠くならないように生活サポートノートを書く研修会
オンライン、ハイブリッド開催も

防災館や福祉施設の見学

研修目的ならば無料の市のバスを借りて。道の駅やお菓子パークなども入れて、学び+楽しいに

シンポジウム

障害者週間に合わせ市との共催で地域生活支援拠点や成年後見制度など、関心の高いテーマ

障害理解啓発

キャラバン隊「カラフルBOX」と警察学校・消防学校へ出前授業

お父さん出番ですよ事業

お父さんなど男性だけの懇談会&懇親会

スマホ教室

県デジタル戦略課と、ソフトバンクの協力で

会員へのお便りはマメに郵送料がかかっても気づいたら退会していたというケースもあるので

日帰りのバス旅行
行き先は人気スポット
→すぐに満員御礼

本人活動

現地集合でランチや音楽レクリエーション
本人との活動なら参加する保護者も

三役や理事の連絡グループLINEの活用
オンライン会議

などなど…

このような活動を楽しくやってきて、育成会の強み・良いところというと、地区事務局を担う市役所や社協の協力が大きい、また最近、親以外の賛助会員（町議など）が微かに増えているところでしょうか。

一方で、私が会長になってから10年、説得には行ったのですが町の育成会が二つも解散してしまいました。解散の理由は高齢化に伴い、役員を引き受ける人がいない、ということ。お子さんが施設やグループホームに入所されると、そこの保護者会だけで十分だということです。

全国の育成会に実施したアンケートからも同じような話がたくさん聞かれました。若い人が入会しないという課題については、「あなたたちはいいのよ、恵まれているの、私たちの時代なんて…」と古参の会員が“日本昔ばなし”みたいな話をする、というエピソードもありました。育成会でもお姑さんに会いたくないなあと思いますよね（笑）もちろん育成会の歴史は素晴らしいものです。だけど、若い人のお話も聞いてみてほしい。福祉サービスが充実しても、逆に人とは繋がれていなかったりするようですよ。

小さな地域ならではの、小さい頃から知っている、顔が見える仲間たち。育成会活動で大切なのは、仲間だからこそ共感できることがあること。全ての人たちに、どんな状況になっても温かいサポートがあることを伝えていかなければならないのです。

障害のある人が地域で生きていくための課題は山積みで、すぐには解決できなくても、行政や関係機関のみなさんが話を聞いてくれるのは、先輩方が長い年月をかけて信頼関係を築いた努力の賜物と思います。育成会の取り組みは、自分も楽しくないと続けられないですよ。長崎のみなさんの考えも聞いてみたい。心をつなげて前を向いていきましょう。

グループ討議「どうする？育成会」

フォーラムの後半はグループに分かれ、「育成会の良いところ、困ったところ」「若い会員が入会するには」をテーマに話し合い、発表してもらいました。

「会員同士が仲良く、つながりが保てている」「会員から利用中の事業所の情報などが得られる」といった良いところに関する意見の一方、「役員のなり手がいない」「入会メリットが不透明」「会費が負担」など困った点も。

そんな中、「運動会やキャンプなど、育成会の魅力を知ってもらう活動の展開」「特別支援学校との連携」「会費の見直し」など、現在すでに実行している育成会の取り組みには、今後、入会のお誘いの参考にできるのではという他の育成会からの意見も出ました。

地域の育成会のメンバーが一堂に集まり意見を交換し合うことで、お互いの悩みに共感したり、共通の課題に向き合うことができ、有意義な時間を過ごせたフォーラムとなりました。

フォーラムに参加して

今回の研修のテーマは、今、私たちが直面している課題そのものであり、参考にしたい思いで、役員で参加をしました。講師の小島副会長さんは、自閉症の息子さんを育てながら地元栃木県の育成会活動に始まり、今では全国育成会連合会の役員として幅広く精力的に大活躍されているそうです。障害者理解啓発活動には、共生社会の実現に向けて警察学校や消防学校で出前講座を実施されていました。

意見交換会では「どうする育成会」のテーマに沿って育成会の良いところ探しを行いました。忘れかけたことも思い出され、各グループから発表。育成会は全国組織であるから新しい情報がいち早く提供され、要望も取り入れてもらうことも忘れてはなりません。私たちは先輩会員に声をかけてもらったことで、親同士、子ども同士が楽しい交流をしている今があります。若い方にもこの声掛けを引き継げば良いことなのに、ためらっている自分があります。小島副会長さんの言葉のように「楽しいところ」に目を向け、活動内容を見直し、一人でも多く会員増を目指し「良かった」「役に立った」の声が届くよう、今後の活動に生かしていきたいです。（平戸市手をつなぐ育成会会長 大久保ひろ子）

コロナ禍の影響もあり、人と人とのつながりが薄くなっている今日この頃、栃木市の育成会の状況と県の活動報告があり、意見交換会では育成会の良いところ困ったところの話をしました。

私の育成会でも役員を引き受ける人がいない、役員の高齢化、総会・定例会の出席者が少なく困っています。参加したみなさんと意見を交わしたことで、今後は出席者が増えるように頑張りたいと思います。（長崎慈光園育成会 村田 榮）

第62回九州地区手をつなぐ育成会 福岡市大会開催!



さる10月8日(日)に、4年ぶりの集合型開催で九州地区手をつなぐ育成会の福岡市大会が、福岡市の福岡国際会議場で開催されました。まだコロナ時代の影響もあるのか1日だけの開催でタイトなスケジュールとなったようです。

この大会で、長年会長職を勤めてこられた久保厚子氏が退任され、新しく東京都の佐々木桃子氏が全国手をつなぐ育成会連合会の会長となられたことが発表されました。全育連も新しい会長を迎え、なお一層の飛躍を期待するところです。(写真下↓:佐々木桃子氏)



なお、久保氏は7月に全育連の顧問として就任され、国のさまざまな審議会の委員として活躍され、育成会の立場を貫いた施策提言をすることで知的障害のある人たちの生活向上に大いに貢献されておられます。そのことにより九州地区手をつなぐ育成会協議会より感謝状の贈呈がありました。久保顧問は「みなさまからのねぎらいの言葉が何よりうれしいこと」だと謝辞を述べられました。久保顧問の今後益々のご活躍に期待を寄せ、私たちも各地域での育成会活動に頑張っていこうと思いを新たにしました。

さて、大会では久しぶりに来賓列席の式典で22名の功労者に表彰状が贈られました。

長崎県育成会からは慈光園 壽福 薫氏と林 幸子氏が受賞され、福岡大会には壽福氏のみ参加されました。(→写真:慈光園 壽福氏)

そのあと、中央情勢報告(又村あおい常務理事)、午後からは「親なき後の本人の暮らしの現状と課題について」をテーマにシンポジウム形式で全体会が行われました。

中央情勢報告では主に法制度の昨今の動きが主な内容でした。

- ・児童発達支援センターや放課後等デイサービス
→総合支援型を基本とし、多様な障害等への専門機能を強化



- ・障害者の居住支援
 - 本人のライフステージに応じた新たな類型として、通過型のグループホームの制度化
 - 地域生活支援拠点や基幹相談支援センターの設置も市町村の努力義務として位置づけ
- ・就労系支援
 - 就労系障害福祉サービスの利用を希望する人に対する就労選択支援などの新しい内容が追加
- ・成年後見制度
 - 法務省の研究会に久保顧問が引き続き参画
 - 民法改正や成年後見制度に関する抜本的な見直しまで踏み込んだ議論が期待されます。

シンポジウム「親なき後の本人の暮らしの現状と課題について」

- ・コーディネーター 池田 顕吾氏(福岡市東区第1障がい者基幹相談支援センター長)
- ・助言者 又村 あおい氏(全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事兼事務局長)
- ・発表者
 - 保護者の立場から 古川 直美氏(福岡市手をつなぐ育成会保護者会)
 - グループホーム事業所の立場から 山川 泰氏(果樹の家 管理者)
 - 事業所協議会の立場から 十島 真理氏(九州地区事業所協会)
 - 介護保険事業所の立場から 小山田 望氏(特別養護老人ホーム桜ヶ丘施設長)

シンポジウムでは、介護事業所の小山田氏が登壇され、知的障害者の65歳問題についてが課題となりました。知的障害者については、共生型サービスとして介護事業所で受け入れが進んではいるが、介護事業所の現場が認知症と知的障害の自立観の違いや特性について正しく理解されていないようで、支援のあり方の相互乗り入れをしっかりと実現できるよう、介護事業所の研修が必要だろうと発言されました。しかし、それは障害福祉サービス側も同様で、相互理解を深めていくことの重要性を改めて確認しました。

親なき後の制度を多様な視点で捉え、知的障害のある人たちが本人らしく自己を尊重され生きていける社会となる様、社会へ、地域へ、今後もしっかり働きかけをしていきたいものです。(谷)

福岡大会・本人大会

福岡大会本人大会では3つのコースが準備され、長崎市、西海市、島原市の本人さんたちが参加しました。

「本人発表コース」ではグループに分かれ、サイコロトークのさまざまなお題で盛り上がり、他県の方たちと交流しました。午後からは九州各県と福岡市、北九州市の代表が思い思いの内容で意見発表し、その後の質問も活発にやり取りが行われました。「室内活動コース」では音楽と芸術を楽しむ室内活動が行われ、参加型音楽イベント「MLAP(むらっぷ)※」で身体を動かした後、午後からはサンドアートや缶バッジ作成、ライブペイントなど体験ワークショップを楽しみました。「FUKUOKA 体験コース」はチームラボ・フォレスト体験や明太子作り体験、買い物などで福岡の街を満喫しました。参加されたみなさんは口々に楽しかったと笑顔で報告されていました。(吉井)

※MLAP(むらっぷ)・・・年齢・性別・国籍・障がいや音楽経験の有無などに関わらず、地域住民の誰もが参加できる—あらゆる人に生涯音楽プロジェクト—Music with Life for All Project の略。(福岡市手をつなぐ育成会 HP より)

九州地区手をつなぐ育成会福岡市大会に参加して

私は育成会福岡市大会の長崎県代表に選ばれてから、ずっとこの日を楽しみにしていました。午前中のサイコロトークは、知る見るプログラムの内容とは違う視点で話をしたり、聞いたりできてとても楽しかったです。午後の発表では、他の6名の発表もとても勉強になりました。特に、私は一般就労を目指しているので、スーパーで働いている方の発表が印象に残っています。

また、ロビーではいろいろな物を販売しており、私は発表者の方が利用する事業所で作ったパンを購入し、おいしくいただきました。

今回の貴重な体験を忘れずに、自分の夢の実現に向けてこれからも明るく元気に頑張りたいと思います。(西海市手をつなぐ育成会 新地 真由美)



特別全国障害者スポーツ大会メダル獲得者（知的障害者のみ掲載）

令和 5 年 10 月 28 日～30 日まで「燃ゆる感動かごしま大会」をスローガンに鹿児島県で開催され、長崎県から個人競技 39 名と知的バスケットボール男子 10 名、知的混合サッカー16 名、聴覚バレーボール男女各 11 名が参加し、金メダル 16 個、銀メダル 10 個、銅メダル 17 個計 43 個を獲得しました。

競技種目	選手名	種目 1	種目 2
陸上競技	臼木 大悟*	200m 第 1 位	100m 第 1 位
	西山 蓮*	100m 第 2 位	
	本田 将真		100m 第 3 位
	大石 祥*		100m 第 1 位
	古川 侑佳		100m 第 3 位
	木村 陽菜*	200m 第 2 位	
	大石 透		ジャベリックスロー2 位
	上記*4 名	4×100mリレー第 1 位	
水泳競技	大砂 陽菜乃	25m 自由形第 1 位	25m 背泳ぎ第 1 位
	出口 楓真	25m 自由形第 3 位	
卓球競技	太田 歩美	一般卓球第 1 位	
	志田 毅立	一般卓球第 2 位	
ボウリング競技	山口 大惺	第 2 位	

～ボウリング競技に出場して～ 長崎大学教育学部附属特別支援学校 高等部三年 山口 大惺

私は、県代表選手に選ばれた時は、心の中が驚いたし、希望が叶ってとても嬉しかったです。対戦する相手にどんな選手がいるのか凄く楽しみでした。

鹿児島での事前練習では、私と同じようにフックボールを投げる選手や両手投げやサムレスで強いボールを投げる選手もいたので、全国大会はやっぱり凄くと思いました。本番 1 日目は、レーンコンディションが難しく緊張もしましたが、お父さんや学校の谷本先生も応援に来てくれて、凄く勇気が出たし気合も入ったので、最後まで諦めずに投げて2G平均 182 点が出せました。2 日目は少し調子が悪かったけど、集中して丁寧に投げて 2G 平均 172 点で合計 708 点でした。結果は、銀メダルで悔しかったけど、全国の人達と一緒に投げられて楽しかったし、とても良い経験になりました。

翌日の閉会式では、各競技の映像やC&Kの演奏などもあり、競泳の宮下純一選手や陸上の室伏広治選手も見ることが出来て、とても感動した心に残る閉会式でした。来年も出場するチャンスがあったら今度は平均 200 点以上で金メダルを目指します。これからもしっかりと練習をして、本番で落ち着いて投げられるように頑張っていきます。燃ゆる感動かごしま大会に出られて本当に良かったです。応援頂き有難うございました。



大会出場選手と。中央が山口さん

わたぼうしコンサート入選

障害のある人が思いをつづった詩にメロディーをつけて披露するわたぼうしコンサート。8/27、長崎市民会館で 3 年ぶりに開催され、作詞の部に応募した 161 篇の中から、西海市手をつなぐ育成会の新地真由美さんが 2 度目の入選を果たされました。

♪受賞のことば♪

2019 年に引き続いて今回も入選することができました。

作曲・演奏者と。中央が新地さん

フルーツポンチに、フルーツが入っていたらおいしいですね。でもお肉や野菜

菜が入っていたらおいしくありません。でも、お肉や野菜は野菜炒めにしたらおいしいですね。個性や性格が合う人たちはお互いにつながり合いますが、そうでない人もいます。個性や性格が合わない人もそれぞれ認め合うことができたなら素敵に輝くと思います。フルーツでフルーツポンチ。お肉と野菜で野菜いため。それぞれの個性を認め合って、一人一人が輝ける人生を送ってほしいという気持ちを込めて「フルーツポンチ」という、詩を書きました。曲もついてとても素敵なメロディーになり、わたぼうし大賞とはなりませんでした。県知事賞をいただきとても光栄でうれしく思います。また、他の方の詩やメロディーもとてもステキでした。次はわたぼうし大賞を目標にこれからも詩をたくさん書いていきたいです。(西海市手をつなぐ育成会 新地 真由美)



育成会活動を広くお知らせできる活動



ひまわりキャンプ ～島原市手をつなぐ育成会～

ながさき育成会フォーラムの後半、グループディスカッション『育成会の活性化について』で、島原市育成会の方が発表、紹介されていました。この魅力的なキャンプに参加したくて入会される人、ボランティアとして参加することで育成会を応援してくれる人がいるとのこと。長く続いている活動から学ぶ事も多いのでは？主催の島原市育成会にお話を伺いました。

「ひまわりキャンプ」と縮小版「プチひまわり」



島原市手をつなぐ育成会では、毎年、夏休みに、特別支援学校と市内特別支援学級の小中学生、その兄弟姉妹児を対象とする「ひまわりキャンプ(2泊3日)」を参加児童生徒約40～45名、ボランティア約100名(ボラ内訳:子どもたちへの直接支援・夜廻り・調理・各会場への送迎・開催時のイベント等)で開催しています。

コロナ禍で令和2年度と3年度は中止となりましたが、子どもたちや保護者から「何かしてほしい」との声が聞かれ、4年度は、「プチひまわり」と名称を変え、日帰り行事(3コース:ゆっくりコース・乗馬コース・列車乗車)を16世帯48名の参加者とボランティア33名、計81名で開催しました。

令和5年度も、まだ2泊3日の大勢でのキャンプは難しいと判断し、特別支援学校職員有志と当法人職員有志で、地元の島原鉄道が行っているカフェトレイン(地元のグルメとスイーツを楽しみながらの観光列車)2両を貸し切り、11月23日に15世帯42名、ボランティア18名(緊急車両・看護師・イベント担当含む)で「プチひまわり」を開催しました。



カフェトレイン内での食事はもちろん、CMで有名になった「日本で一番海に近い駅 大三東駅」に停車し、願いを込めて幸せの黄色いハンカチを取り付けたり、ひまわりキャンプのテーマ曲「ひまわりえがお」を歌ったりと、観光客も一緒になって盛り上がりました。

初めての企画を実施するには、やる気・時間・労力が必要ですが、日頃、家族だけでは行う事が難しいと思われることを企画開催し、子どもたちと家族のみなさんが笑顔いっぱい楽しみ、喜んで様子を見ると、「開催してよかった」と心から思います。

私たち育成会と事業所が挑戦し続けることが、障がいのある人たちの理解と地域づくりにつながると確信しています。(島原市手をつなぐ育成会 統括管理者 菅 敏洋)



知的障がい児者・自閉症児者の 生サポは 家族の安心を支えます

- 日常生活に関する相談支援
 - 就労に関する相談支援
 - 権利擁護に関する相談支援
- の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事者事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

病気で死亡したとき
疾病葬儀費用保険金

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償 ※オプションによって利用します

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術・各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

就労中に他人にケガをさせたり物を壊してしまったとき
職業従事者事故対応費用補償 ※オプションによって利用します

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者

ジェイアイシー九州

〒810-0001 福岡市中央区天神4-6-7
天神クリスタルビル14階

TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562

受付時間: 午前9時～午後5時

(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社

<https://www.aig.co.jp/sonpo>

福岡支店

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35 富士火災福岡ビル

TEL: 092-718-7000

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

ながさき知的障害児者生活サポート協会

〒852-8134 長崎市大橋町19-19

長崎市手をつなぐ育成会内

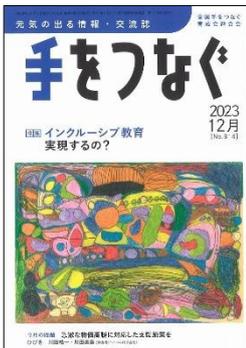
TEL: 095-845-5668 FAX: 095-845-5664

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2019年11月現在の内容です。(D-004329 2021-03)

《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》 3月まで

行 事	月 日	場 所 及 び 主 催	概 要
障害者 110 番事業 無料法律相談	1月18日(木) 2月6日(火)	時津町 総合福祉センター 諫早市社会福祉会館	13:30~14:00 「保険のはなし」 (ぜんち共済・生活サポート協会) 14:00~15:30 講話・質疑 「障害者差別・虐待などの 悩み相談について」(後見含む) 弁護士 曾場尾 雅広氏 15:30~17:00 個別相談 (なんでも可)
令和5年度 全国手をつなぐ事業所 協議会全国研修大会・ 長崎県大会	2月24日(土)	出島メッセ長崎 2階コンベンションホール 1階会議室 101	10:00~10:40 開会行事 10:45~12:00 行政説明 12:50~14:20 基調講演 14:30~16:30 シンポジウム 16:30~16:45 閉会行事
本人部会「長崎きずな」 連絡協議会	3月3日(日)	長崎県 総合福祉センター	10:00~12:00 1年間の反省・次年度に向けて
全国育成会フォーラム 会長・事務局長会議	3月中旬	全育連(東京)	対面開催、育成会フォーラム・行政 説明は事前収録配信方式も検討
長崎県育成会理事会	3月22日(金)	長崎県 総合福祉センター	13:00~16:00 R5 年度補正予算等 R6 年度事業計画・予算等



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者（本人・家族）に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。 年間 3,900 円 B5 版 48 ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

お申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

知的障がい・発達障がい、ダウン症、てんかんのある方、ご家族に

病気やケガが絶えない…
成人病や生活習慣病に備えたい…
他人の物を壊してしまった…
虐待・雇用現場での差別など
人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ

ぜんちの **あんしん保険**

少額短期損害保険(無告知型)2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの **こども傷害保険**

権利保護補償付傷害保険 2019年創設

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、弁護士がサポート

このようなお困り事に
心当たりがある方に…

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

ぜんち共済株式会社
関東財務局長(少額短期保険)第14号
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階
※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。
【2020年1月作成 19-TC06633】

0120-322-150
平日9時~17時/土日・祝日・年末年始を除く
URL: <http://www.z-kyosai.com/>

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社トータル・サービス
〒850-0033 長崎県長崎市万才町6-35大樹生命長崎ビル5F
TEL:095-827-7705 FAX:095-832-2580

弁護士が
全面的に
サポート